
しあわせのDNA

ハルアユ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

しあわせのDNA

【Zマーク】

Z5963C

【作者名】

ハルアル

【あらすじ】

「ほんとうはわかってるの…私が手をはなしてあげるべきだつて流れにさからつてるつて。」恵まれて育ち欲しいものはなんでも手に入ってきた眞菜だが、客室乗務員ゆえの悩みをかかえながら最後の恋をさがす。はたして勝ち組になれるのか？何が勝ち組なのか？

プロローグ

「カフェオレ下さい。」久しづびりに女友達と待ち合わせし、近況を話すことになった。眞菜は紙袋の中の淡いブルーのカシミヤのセーターをのぞいた。さつきこのカフェに来る前に衝動買いしたのだ。

「眞菜、お待たせ。ごめんね遅くなつて。」

「ううん、大丈夫。」

「車でいくつてみこ」がいつから一緒にきたんだけど道が混んでたあ。

眞菜は？ 買い物？

「うん、まあね」

5年付き合つた彼とわかれた。

理由は3つ。

ひとつは、彼との価値観の違い。もつとわかりやすいくいえば育ちの違い。眞菜は裕福に育ち、彼はいまだに賃貸に親と住む。二つめは彼の社会性。彼は名もない飲食店の息子。あとをついでるわけでもなくきままに店を手伝つ今まで言つフリーター。もう35歳をすぎてるので、そしてそのことに強いコンプレックスを持つていた。一部上場の航空会社で国際線を飛ぶ眞菜を他人には自慢しながらふたりのときはいつも自分勝手にひがんでいた。3つめの理由は、眞菜の目が覚めた。もともと親には猛反対されていた。だからこそ意地になつて気持も盛り上がつた。東京と大阪という距離も手伝つてた。

「もう懲りたわ」

「そうだね。みんな不思議に思つてたんだよね……確に顔はかっこよかつたけどそれだけだつたような……」

「それに随分ふりまわされてなかつた？」「まあ世間知らずのお嬢ちゃんがちょっと不良にはまつてしまつたつてところかな？」眞菜は少しづぶぜんとする。「何それ」「これからは慎重に選ぶこと

だね」

確にそうだな… もう26だし。急がないと。

会社には30過ぎても普通に独身の先輩がたくさんいる。彼氏がいるんだかいないんだか… カツ 口悪う 真菜は実は入社したときから思っていた。客室乗務員を一生したいなんておもったこともなく、20代で結婚して子供できたら辞める。

日安は35歳。マル高までに。こいつ人生って悪くない。たぶんだいたいはこうなるだろう。真菜は信じて疑わない。今までこうなつたらいいなあとと思うとだいたい実現した。自分でも不思議な位だ。だからこそ今回別れた男に関しては そんなのひっかかるてしまつた自分を苦々しく思う。もう失敗できないな。真菜はひとりごちた。

「でもお見合いもいいかなあつて思うんだよね。なにより書類審査できるじゃない」元彼のことはまだつきあつて間もないころから親には猛反対されていた。興信所まで使ってすべて調べあげてつきつけられた。あのときはショックだった… 親のしたことよりその内容があまりに自分の中に抱いていた不安にヒットしていたからだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5963c/>

しあわせのDNA

2010年10月12日01時21分発行